

授業の具体的展開例

T: ブロックはよいできましたか?このブロックをどのように動かしたらいいのかな。

C: 動かしていい?

T: いいよ。式と答えを書いてみよう。かけた人は、どうしてその式にしたのか、わけもいえるように考えてください。

T: どんな式にしましたか?自分の式を言おうね。

C: $7-4$ です。

C: $7-6$ です。

C: $7+6$ です。

T: どうしてその式にしたのかな?

C: たすにしました。ドッジボールの人は13人なので、たすです。

T: 13は、どこで分かったの?

C: ブロック。

T: 数えたの?考えたね。同じ理由だった人はいますか。

他の理由だった人はいますか。

C: ぼくはたすにしました。「ドッジボールをしている人は何人ですか」だからです。

T: なるほど、他の人はどうですか。

C: たすにしました。ひくだと、ドッジボールをしている人にならないから。

T: じゃあ、ブロックをどういうふうに動かした?前に出て黒板でやってくれる人?

C: 黄→白へ3つ移動

C: 残りの3つも、下へ移動。

T: ドッジボールをしている人というのは、白組と黄組をどうしたの?

C: あわせた。

T: なるほど、みんなでやってみようか。いまからドッジボールをします。<ロールプレイ>

これは、白組と黄組をどうしたの?

C: あわせた。

T: 何算になる?

C: たし算。

T: あわせたの合図でやります。まねしてね。白組と黄組をあわせて(ブロック操作)ドッジボールをしているのは、白組だけ?黄組だけ?両方だね。

だから、答え13人ですね。

T: みんな迷ったよね。たし算、ひき算になる言葉がついていなかったね。自分で言葉を見付けなといけな問題もあるんだね。

「活用」の力を育てる評価の工夫

本時は、この単元の1時間目である。本単元では、「問題の場面を、数図ブロックなどを用いて的確にとらえ、演算決定ができる」ことが目標である。特に、今までのような「合わせて、全部で、みんなで…」というたし算につながる言葉や「ひくと、少なくなると、比べると…」というひき算につながる言葉が、文章の中にない問題を取り扱う。そこで、文章の意味を適切に捉え、言葉だけで判断するのではなく、場面把握を行って演算決定することで「活用する力」の育成を図ることを目標としている。また、ブロックを自ら動かして考えられるように、全体では分かっている事のみ確認し、思考の時間を確保した。その中で、演算決定の理由についても自分の言葉で説明する力を育てることも目標としている。

「活用」の力を育てる評価の視点

本時では、これまで学習してきた「たし算」「ひき算」を用い、場面を的確に捉え、演算決定をすることが大切である。また、文章から人やブロックがどのように動くのかを予想し、実際に動かしてみることで、場面把握が行いやすくなる。そして、児童が発表する際、自分の考えを相手にわかるように表現する力も伸ばしたい。

「活用」の力を見取る具体的な規準としては、

- ①文章問題を読み、ラインを引き、数値を○で囲み、立式して、答えを求め、自分の考えを説明している。
- ②文章から数図ブロックを並べ、立式し、答えを求めている。
- ③気付いていなかったことを、説明を聞き、理解している。
- ④説明を聞いても理解できない。

が考えられる。④の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。①或いは②の状態になるよう、絵やブロック等を用いながら、適応問題の場面を充実させたい。



板書例は
こちら

CLICK

単元の流れへ

本時の流れへ

評価問題

HOME